

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1170401044
法人名	社会福祉法人 健友会
事業所名	グループホームみなみかぜ
所在地	〒350-0807 埼玉県川越市大字吉田204-2 (電話) 049-239-6036

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月17日

【情報提供票より】(19年12月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	24 人
職員数	23 人	常勤	14人, 非常勤 9人, 常勤換算 18.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	4階建ての	2階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	30,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,000円			

### (4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	24 名	男性	5 名	女性	19 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西部診療所、吉田デンタルクリニック
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

在宅サービスや施設サービス、地域活動の場として、組織が一つとなって取り組んでいる。「もう一つの家族、地域で暮らすみんなの家を目指して」を理念とし、活動や運営をしっかりと行っている。グループホームみなみかぜは、個室、共用部分もゆったりと広く、利用者との関わり方にもゆとりが感じられる。特に医療、福祉の連携がよく、内科、歯科、精神内科の訪問診療があり、看護師が24時間連絡可能な対応をしている。また、食事の大切さを認識し、共食の場を提供している等新しい取り組みを行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念は日常的にミーティング、研修会等その時々話し合っている。家族へは連絡の便りでも知らせ、玄関、事務室など目につきやすいところに掲示して理解を深めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、利用者を直接担当している職員から様子を聞き、その後、ユニット毎のミーティングで話し合い作成している。評価の内容は、十分に活かされるように全職員で検討し努力している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は年4回開催し、利用者の活動の様子、行事報告、入退所の状況の報告をしている。また、委員の意見を聴いて、その結果をサービスの質の向上に活かすように努力している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人全体の苦情解決委員会およびグループホームの相談窓口が決まっており、対応するようになっている。日常の相談は電話で対応したり、来所時に担当職員が伺って報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域活動が活発で、常に地域の人達が出入りして気軽に声をかけている。また、食事会を開いたり、行事に参加して施設全体で地域と連携を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としては、もう一つの家族、地域で暮らすみんなの家、家族、地域との関係を継続できる暮らしを続けていくことを理念としてつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	研修会や勉強会の時に理念を説明し、理解してもらえるように取り組んでいる。職員には、年度初めに渡す資料に理念を記載し、常時理念の理解と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の中に地域交流センターがあり、全ての行事に参加している。ゴミ拾いにも参加し、夏休みボランティア、小学生の総合学習、子育てサークルとの交流会も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価については、ユニット会議、合同会議で検討し、職員にも年度初めに説明し、改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年4回開催している。会議では意見を出してもらって検討したり、評価報告をするなどしてサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員との連絡は常にとっている。介護保険課と研修の相談をしたり、法人の研修委員会もあり、市担当課とともにサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、家族に連絡記録表(担当者が一日の出来事を一行書きしたもの)や領収書等を渡して説明し、生活の様子が少しでも見えるように工夫している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや法人に苦情解決委員会があることを伝えている。担当職員が電話で対応したり、来所時に意見を聞いたりして、運営に反映させるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。リーダー交換等はあるが充分説明して動揺を少なくする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昇格のための研修会(法人内)、キャリアアップ研修会、外部の研修会には極力参加できるよう配慮している。各自のレベルやニーズに合わせた内部研修の機会も設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に地域包括支援センターがあり、そこで交流会等をもって広く情報を得られるように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前に家族と十分な話し合いをし納得してから入居してもらっている。法人内のデイサービス等を利用して入居する方も半数ぐらいいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の辛さなどを知ること努め、職員も相談したりして共に支え合う関係を築いている。夕方、時間のある時には、ゆっくり話をしたり、家族からの情報も大切に個別ケアをしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いの把握に努めているが、家族の意向と必ず一致するとは限らないので難しいところがある。		本人にとって何が最良の方法となるかを考え、家族等の思いや意見も聞いて、更なる本人の意向の把握に努めることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のユニット会議の状況により、臨時カンファレンスを開催し、介護、看護、管理栄養士、家族等と話し合いをもって、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアは担当制にしている。細かくノートに記録し、ケアの方法の変更が必要な時は、ミーティングで検討し見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の体調の変化に合わせ、往診や通院、検査など素早く対応し、本人や家族の状況に応じて、職員が通院介助をするなど臨機応変に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を大切にし、家族の付き添い、職員の通院介助をすすめている。往診も内科、歯科、神経内科の3科で行っている。かかりつけ医への連絡は常に可能であり、また、看護師も配置されているため、24時間体制の医療が受けられる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族会の時に話し合い、年2回個人面談をして、介護老人福祉施設、特別養護老人ホームに申込みを行っている。終末期の対応についても、職員間で方針を統一している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新任職員の研修時に、プライバシーの確保について指導している。個人情報の取扱いは、保管庫に入れ施錠している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの大きな決まりごとはあるが、その他は本人の希望に添うようにしている。十分なアセスメントの上で一人での散歩も行っている。入浴、食事もその人のペースに沿うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎、朝、昼食は作っている。夕食は併設の介護老人福祉施設、特別養護老人ホームから運んでいる。片付けの手伝いや材料の買い出の手伝いをしてもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後、4～5人が入浴している。回数や時間は本人の意向を聞き、嫌がる利用者には、足湯をすすめたり、友人同志での入浴をすすめたりして楽しんでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	キッチンの片付け、洗濯物をたたむ、買い物等で役割を持ってもらっているが、利用者個々の特徴を活かした満足のいく支援はできていない。		ADLの軽い人(日常生活動作がほぼ自分で可能な方)、認知症の方の個別の特徴を活かした気晴らしの支援の方法の検討をすることが望まれる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事のための買い物は、みんなで買い出しに行っている。また、外食に出かけたり、映画を見に行ったりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はほとんど施錠していない。利用者は自由に出入りしており、センサー、インターホンを利用して行動の把握、認識をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で、防災訓練を年2回実施し、利用者も参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別のチェック表、食事摂取量、水分チェック表を作成している。それを職員間で共有して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりとしている。食事も家庭的な対面式のつくりで、家庭的な匂いも伝わっている。季節感を出すため、ゆず湯、菖蒲湯を取り入れている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各人のスタイルにより整理し、ゆったりと過ごせるようになっている。仏壇、写真や色紙も飾られている。		